

## NPO 中期事業計画における自主研究機関(前一財至公財)及びコンソーシアム(至建設事業会社)の2021年度事業見通しについて

昨年度は、コロナ禍の影響で対外的な交渉、折衝に大きな支障をきたしたことは否めません。

### ■令和の築城を目指して

中期事業計画の目標は、江戸徳川最後の天守(寛永度天守)が江戸の街に聳えていた地(現皇居東御苑)で、大火による崩落後に新たに石積みされたまま現在にその姿を残す台座の上に、保科正之の「今はその時にあらず」の決断以後ついに今日に至るまで徳川第4代目に相当する天守の建設が果たされなかったものを、その後の徳川幕藩体制の崩壊から幕末開国を挟む近現代史の移り変わりの中で、“今日”という時代を背景に、焼失後360有余年を経て令和の今に実現することにあります。

これには、NPOの現在の組織、体制、陣容、そしてこれまでの活動の延長に加えてしかるべく外部の力が必要とされ、しかもそれはそれぞれに役割・機能を分けつつ主旨・目的を共有する新たな組織体(公財及び建設事業会社)の設立が前提されることは、既に共通の確認事項であります。

### ■建設事業会社

公共・公益性を旨とすることから建設事業会社においては幅広い業種・業態からなる複数企業体が前提されますが、その準備組織となるコンソーシアムの立ち上げについては、有力視していた観光・旅行業界のコロナ禍による大打撃等を踏まえ、今年度はwithコロナ、afterコロナの中で大きく見直しを図るとともに、コロナ禍で被った各企業の情勢を見守りつつ、引き続きコンソーシアム設立に向けた働きかけへの支援、調整を継続していきます。また、敷地の使用許可の見通しが立てば建設事業会社の設立は速やかに進むと考えられますので、上記とは別途に政府、関係省庁、都等への働きかけについては、コロナ禍の状況を見ながら機を見て併行して進めていきます。

### ■公益財団法人

一部の会員支部の中で自主的に中期事業計画の勉強会が行われたことは、NPO執行部と会員が一体となって冒頭に掲げた目標に向かうプラットフォームの形成につながる動きとして評価され、また、ここから会全体としての力が醸成、発揮されていくことに期待しています。長引くコロナ禍の中で経済だけでなく人びとの価値観やライフスタイルも大きく変容していくことが予測されます。

それに伴い、将来の公益財団法人の”心柱”となる「江戸城天守再建」の理念・意義であり永年のテーマでもある「何のために再建するのか」への(お城や江戸ファンだけでなく)広く国民世論を巻き込んでいく回答探しにも、これまでの茫洋としたものからより絞り込まれた、またはコロナ禍による社会の脆弱さをはじめとするさまざまな気づきや問題意識の芽生え

の中で打てば響く、手応え感のあるものが得られるのではと、むしろ前向きに、ポジティブに捉えています。

こうした見通しを旨に、近い将来の公益財団の設立に向けた調査・研究機関の立ち上げを継続的に側面支援しつつ、今年度は会員の皆様と執行部のより緊密な関係を築くとともに、「何のために再建するのか」の議論を深めていきたいと考えています。

---

コロナ禍の影響で対外的な交渉、折衝にはまだまだ予断を許さない状況にありますが、今年度中にはNPOの確かな先行が見通せることを目指して、上記の活動を続けてまいります。